

水田農業を巡る情勢

令和7年10月8日
福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

【令和6年産米の動向】

1. 相対取引価格（8月）

- (1)全 国：相対取引価格は、全銘柄平均**27,179円/60kg**対前年同月+11,046円(+68%)
対前月+261円(+1%)となった。令和6年産米の取引（契約）が終盤である
ことから、8月価格が取引全体に及ぼす影響は小さいと見込まれている。
年産平均**24,825円/60kg**は比較可能な平成2年以降過去最高価格となっている。
- (2)福島県：年産平均で**中通コシ26,305円/60kg（前年比176%）天のつぶ24,977円/60kg
（前年比175%）**と高値を維持している。

2. 主食用米集荷・契約・販売状況（8月末）5,000ト超事業者のみ、**備蓄米放出分含む**

- (1)全 国：集荷**2,432千玄米ト（前年比94%）**契約進捗（前年比97%）販売進捗（前年比92%）
- (2)福島県：集荷 **139千玄米ト（前年比111%）**契約進捗（前年比104%）販売進捗（**前年比118%**）
福島県の場合、備蓄米放出分が含まれていることから全国進捗を大幅に上回っている。

3. 米の消費動向（米穀機構発表8月分）

一人一か月当たりの**精米消費量は対前年同月比▲4.6%**と減少傾向が続いている。
米価高を起因とする消費減が影響していると推察される。

4. 民間流通在庫（8月末）

全国の8月末の民間在庫量は83万ト（うち備蓄米1.8万ト・対前年同月差+18万ト）と
随契備蓄米放出により前年同月差が4か月連続で増加している。**うち当福島県**では
備蓄米取扱量が他県と比較し大きいことなどから**4.8万ト**となっている。

5. 主食用米の需給動向及び価格動向（9月時・現状DI及び3か月見通し・米取引関係者）

- (1)需給動向：前回調査比**▲8ポイント**、向こう3か月の見通し（今月の数値**45ポイント**）
農水省発表の需給見通し等から前月より「**需給が緩和する**」という見通し。
- (2)米価水準：前回調査比**▲12ポイント**、向こう3か月の見通し（今月の数値**57ポイント**）
依然、高水準にあるものの、前月より「**先高感が弱まる**」という見通し。

6. 政府備蓄米放出関連（**全体96万トのうち最終的に67万トが放出される見込み**）

(1) 買戻条件付備蓄米（計3回落札約31万ト）

①資格要件に合致した事業者が落札した後、正規流通（倉庫⇒配送⇒精米包装⇒実需）
を前提に販売計画に基づき順次出荷となった。JA全農では概ね4月から作業本格化、
日量**4,000ト**水準を維持し、関係者の努力により契約条件である8月末出荷が完了した。

(2) 随意契約備蓄米は**最終的計28万ト**（1回目20万ト・2回目4万ト・3回目4万ト）放出見込

① 随意契約備蓄米は「全国の消費者に広くスピーディーに手頃な価格でお届け」目的で
政府が希望する販売価格での取扱可能な小売事業者**に5月末より直接販売開始した**。
政府の最大の目的である「**高騰した米価を冷やす**」意味で一定の効果が出たものの、
9/15週の店頭平均価格**4,246円/5kg精米（前週比▲29円）**と随契備蓄米の流通量が
ピーク時から減少した半面、新米出回りなどから上昇に転じた。

② 多くの消費者が買い求めるなど好評を得ているものの、精米余力・複数年産古米の
メッシュチェック（品質）に時間を要しており、契約済分の出荷遅延も発生する等
政府は8月末までの販売不可能取引分の**販売延長を認めたことに加え申込者への今後の
販売意向調査を実施するなど、新米時期に随契備蓄米の販売遅延分がずれ込んだ
ことによる需給緩和が懸念されている。**

【令和 7 年産米の動向】

1. 水田における作付意向（6 月末）

(1)全 国：主食用米は面積で136.3万ha（対前年+10.4万ha、前回調査+2.9万ha）

数量で735万㍶（対前年+56万㍶、前回調査+16万㍶）と過去5年間で最大の生産面積（増加の伸びも調査開始以降最大）となった。

(2)福島県：主食用米は面積で6.7万ha（対前年+1.1万ha、前回調査+0.5万ha）

新規需要米・政府備蓄米からの大幅作付転換となった。

2. 食料・農業・農村政策審議会食糧部会（9/19）のポイント

(1) 例年食糧部会(7月末)で公表されていた「需給見通し」だが、公表先送りとなっていた新たな需給見通し（基本方針変更含）が今般発表された。これまでの1人当消費量減マイナストレンドを前提とした試算から、玄米・精米での把握やインバウンド需要、精米歩留等を考慮し幅を持たせた設定で、項目別実績確定の都度見直す方法に変更

令和8年6月末民間在庫予測 玄米198～229万㍶ 精米176～205万㍶

なお、10月中旬発表の9月25日現在予想収穫量を踏まえ逐次幅を修正更新予定

(2)令和6年産米の流通状況に関する緊急調査

集荷業者以外の業者等への出荷量が全体の約半分を占め流通が多様化していること

に加え、全届け出事業者7万業者への調査の回答率が約2割に留まるなど実効性把握

の観点で課題が顕在化、需要見通しの精度アップには精米ベースでの把握必要性あり

(3)水稻収穫量調査の見直し

統計値が生産現場の実感と乖離があるとの声が多く、従来の「作況指数（過去30年間のトレンド基準）」見直しとの農水省の意向を踏まえ、今般総務省（統計委員会）

で新たな指標「作況単収指数（前年産までの5年中3年平均）」への変更を了承

3. 各県や産地JA概算金の状況

9月上旬までに主力産地の全農県本部や経済連のR7産米JA概算金が出揃ったものの、

業者等との集荷競争が依然として加熱しており、全国のJAグループ主産地では概算金の追加払い等の動きが相次いでいる。一方で精米店頭価格が5,000円/5kgを超える銘柄米が登場するなど消費者の購買意欲は芳しくなく荷動きに陰りが見え始めている。

随契備蓄米の販売延長もあり、需給緩和懸念から米価下落が心配され始めている。

4. 令和 7 年産水稻10a当たり収量の前年比見込み

政府による作況や作柄公表の方法が検討される中、8月15日現在の10a当たり収量の

前年比見込みが公表された。「上回る」「やや上回る」が13県、「前年並み」が福島を含め29県、「やや下回る」が4県と、高温渇水や斑点米カメムシ多発の影響はあるものの、ほぼ順調に推移している。